

**研究用試薬**

# ヒストファイン

第一抗体  
**CD3ウサギモノクローナル抗体(SP7) (ヒストステイナー用)**  
 (動物種：ウサギ)

包装： 60テスト(12mL) Code：713591

製造販売元

**株式会社ニチレイバイオサイエンス**

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL.03(3248)2208 FAX.03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性および抗原分布：ヒト CD3 の  $\epsilon$  鎖と特異的に反応する。T細胞の細胞膜と一部細胞質に反応し、T細胞マーカーとして用いられる。CD3は5種類の鎖( $\gamma$ 、 $\delta$ 、 $\epsilon$ 、 $\zeta$ 、 $\eta$ )があり、T細胞抗原受容体(T CELL receptor)に結合している。
- クローン名：SP7
- 抗体のサブクラス：ウサギ IgG
- 免疫原：ヒト CD3  $\epsilon$  鎖の 156 番目から 168 番目までの 13 個のアミノ酸配列の合成ペプチド
- 製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

**1. 内容**

第一抗体・・・CD3ウサギモノクローナル抗体(SP7) (動物種：ウサギ)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に 12mL を含む。

**2. 使用目的**

組織・細胞中のヒトT細胞の染色

**3. 切片の準備**

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

前処理(抗原賦活化)としてヒストファイン 抗原賦活化液 pH9 (10倍濃縮) (Code:415211)またはヒストファイン 抗原賦活化液 pH9 (調製済) (Code:415201)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面参照)。

**4. 使用方法**

1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

**5. 染色方法の設定**

反応時間を30分間とする。

**6. 貯法**

2-8℃保存。

**7. 使用上又は取扱上の注意**

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	CD3ウサギモノクローナル抗体(SP7)
試薬略称(10文字)	CD3-RM
バーコード	CD3-RM
時間(分)	30

- 研究用としてのみ使用すること。

## ■切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばしした切片(3-4 $\mu$ m厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化): オートクレーブ処理
  - ①抗原賦活化液pH9を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
  - ②バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
  - ③120℃、20分間オートクレーブ処理する。
  - ④圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
  - ⑤バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。  
※オートクレーブ処理後は、バットおよび抗原賦活化液pH9等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
- ⑥スライドを抗原賦活化液pH9から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

## ・抗原賦活化液pH9の作り方

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ Code : 415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。</li><li>・ Code : 415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。</li></ul> |
|---|